

平成29年度

全国学力・学習状況調査における山口市の結果概要について

山口市教育委員会

1 調査の概要

(1) 目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日 平成29年4月18日(火)

(3) 調査対象 小学校第6学年児童
中学校第3学年生徒

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ・国語A、算数・数学A：主として「知識」に関する問題
- ・国語B、算数・数学B：主として「活用」に関する問題

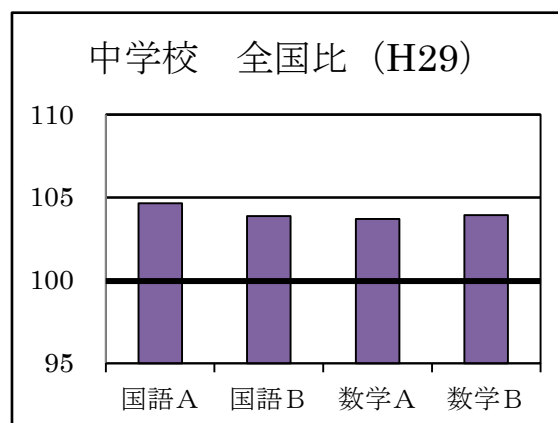
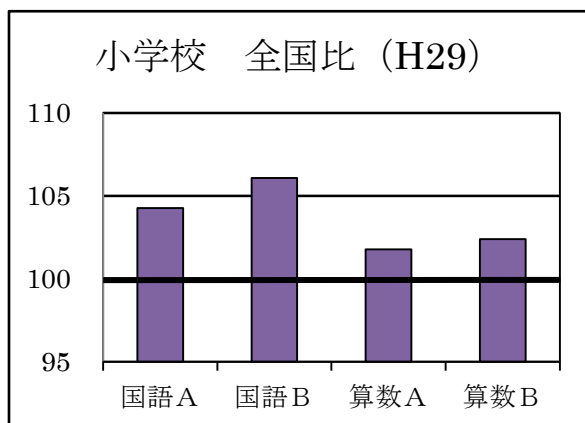
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ア 児童生徒に対する調査(児童生徒質問紙)
- イ 学校に対する調査(学校質問紙)

2 教科に関する結果

(1) 本市と全国の各教科平均正答率との比較

全国の平均正答率を100として、各教科における本市の結果（指標）をグラフで表しています。



○各学校や児童生徒の日々の取組の成果として、小学校・中学校ともに、全ての教科において全国平均正答率を上回る結果となっています。

○小学校の国語Bは、山口市の目標としている全国比105を上回る結果となっています。中学校においては、目標である105には届かないものの、全ての教科で105に近い結果となっています。

(2) 成果と課題

各教科の調査問題※における解答・回答の結果について、山口市の傾向をまとめています。

- …正答率が高かった問題や、経年比較による課題の解決が見られる問題
▼…課題の見られる問題

また、解答結果から見られる学びのポイントについて、次の3点でまとめています。

- 🔍…解答結果の考察 ❓…児童生徒の解答傾向 ⚠️…学びのポイント

※ 調査問題の詳細や全国の調査結果、授業アイデア集などは、国立教育政策研究所の「教育課程研究センター全国学力・学習状況調査」内、「平成29年度調査」のリンク (<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>) から閲覧することができます。

- 互いの考えの同じところや違うところを整理しながら話し合うことや、伝えたいこと
の中心を明確にして詳しく書くことについての理解 (1)、(2)
- 俳句の情景を読み取ること (4の一)
- 「ことわざ」の意味についての知識 (5)
- ▼文の中で適切に漢字を書くこと (7)

※ (4の一) などは問題番号です

<解答結果から見られる学びのポイント>

— 国語A 7 漢字を読んだり書いたりする問題 —

4年生のみなさんへ

放送委員会

委員会活動の体験のお知らせ


1 日時 2月19日(月)～2月22日(木)
10時25分から10時45分まで

2 集合場所
多目的ルーム

3 参加 たいしょう
(1) 4年生の きぼう者
(2)

4 申し込み 期限と申し込み方法
(3)
・ 2月14日(水)までに申しこんでください。
・ 事務室前に申し込み用紙と箱が おいてあり
(4) ます。用紙にクラスと名前を書いて、箱に入れ
(5) てください。

5 お願い
・ 当日は、全員が体験できるように、放送委員の
指示にしたがってください。
(6)



7
いに書きましよう。
部の漢字の読みをひらがなで、
部のひらがなを漢字で、それぞれいね

正答

- ※漢字の書き問題
- (1) 対象 【正答率 37.3%】
 - (2) 希望 【正答率 84.1%】
 - (5) 置いて 【正答率 76.3%】
- ※漢字の読み問題
- (3) きげん 【正答率 95.4%】
 - (4) じむしつ 【正答率 90.4%】
 - (6) しじ 【正答率 94.9%】

漢字を読むことについては成果が見られますが、漢字を書くことについては、同音異義語のある漢字の意味を正しく理解して書くことに課題が見られます。

(1) の問題では、「対照」…3%、「対□」(※□は正答以外の漢字)…25%、「□象」…2%、前述以外(大賞など)…20%という誤答が見られました。

(1) の問題では、「たいしょう」と読む様々な漢字の中から、パンフレットの中で使われている意味に応じて、適切に選んで書くことが必要です。
このように、文や言葉の意味に応じて適切に漢字を書くことができるようになるためには、漢字ノートなどのくり返し練習とともに、日々の授業や日記等で文を書く際に、文で表したいことと漢字のもつ意味が合っているか考えた上で、漢字を正しく書く経験をくり返すことが大切です。

- 他者のアドバイスを受けて自分の考えが伝わるように表現を見直すことや、目的に応じて文章全体の構成を考えること (1の一、2の一・二)
- 書きたいことに応じて、他の文から引用して自分の考えを書くこと (2の二)
- ▼目的に応じて必要な内容を整理して文章を書くこと (2の三)
- ▼自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えること (3の二)

※ (1の一) などは問題番号です

<解答結果から見られる学びのポイント>

—国語B 2 協力を依頼する文章を書く問題(緑のカーテン作りへの協力のお願い)—

○ ○ ○

【条件】
水やりが大変な理由を【アドバイス】から二つ取り上げて書くこと。
【緑のカーテン作りへのお願い】にふさわしい表現で書くこと。
書き出しの言葉に続けて、三十文字以上、六十文字以内にとめて書くこと。

【アドバイス】
去年、わたしたちも緑のカーテンを作ったよ。おかげですずしい夏が過ごせたんだ。でも、水やりがとても大変だったなあ。
まず、毎朝水をやらないとすぐにかれてしまうんだ。朝、水やりをわすれて、昼休みにあわてて見に行ったらしおれかけていたこともあったよ。
それから、大きな緑のカーテンを作るためには、たくさんの植木ばちに水をやる必要があるんだ。植木ばちの数はどのくらい大きな緑のカーテンを作るかで変わってくるよ。
水やりは大変だったけれど、すずしい夏が過ごせて、みんなも喜んでくれて本当にうれしかったなあ。
何かこまったことがあったらいつでも相談のるよ。がんばって作ってね。



水やりに協力してくれる人をほ集めます
大きな緑のカーテンを作るためには水やりが大切です。しかし、水やりはとても大変です。なぜなら、
イ
このように水やりはとても大変なので、たくさんの人の協力が必要です。協力してくれる人はわたしたちに声をかけてください。ぜひいっしょに大きな緑のカーテンを完成させ、全校ですずしい夏を過ごしましょう。

三 【緑のカーテン作りへの協力のお願い】

森さんたちは、「緑のカーテン」を作るため、同じ学年の友達に協力してほしいと思い、次の「緑のカーテン作りへの協力のお願い」を書いていきます。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

緑のカーテン作りへの協力のお願い
6年1組 森・中村・秋山

緑のカーテンとは
夏が来ると、教室が暑くなってこまったことはありませんか。わたしたちは、それを解決するために緑のカーテンを作ることにしました。
緑のカーテンとは、まどの外に植えたアサガオなどの植物で、日差しをさえぎるようにしたものです。緑のカーテンを作ると教室をすずしくすることができます。
中には布のカーテンをしめればよいという人もいるかもしれませんが、緑のカーテンを使うと布のカーテンよりも室内の温度を下げるすることができます。例えば、『緑のカーテンを始めよう』という本には、「ア」
と書かれています。緑のカーテンは、夏をすずしく過ごすためのくふうの一つなのです。

緑のカーテンの作り方
わたしたちは、できれば1階から3階までの全教室をおおうように緑のカーテンを作りたいと考えています。そこで、次のように作ろうと思っています。
1 大きな植木ばちを用意し、肥料と土を入れて1階に置く。
2 1階から3階までネットをはる。
3 アサガオの種をまく。
4 たくさんの水をやる。
5 一番太いつるが1mぐらいになったら先の芽を切る。
6 芽が分かれてのびてきたらネットにまきつける。
7 7月になったら肥料を追加する。

水やりに協力してくれる人をほ集めます

正答例

「(なぜなら、) 毎朝水をやらないといけないし、大きな緑のカーテンを作るために、たくさんの植木ばちに水をやる必要があるからです。」 【正答率 37.0%】

Q 全国平均は上回っているものの、およそ60%の児童が適切に答えることができず、目的に応じて必要な内容を取り出して書くことについて課題が見られます。

? 水やりが大変な理由について、【アドバイス】の中の「毎朝」だけを取り上げ、「たくさんの植木ばち」の内容を取り上げていない誤答が28%見られました。

! この問題では、まずは「水やりが大変な理由を書く」という目的を捉えた上で、【アドバイス】にある二つの事例の具体的な内容を取り出して、整理することが必要です。このように、文章や資料から必要な情報を収集して書くためには、「書く目的の捉え方」や「具体的な内容の取り出し方・整理の仕方」、「表現の仕方」について、一つずつ段階を踏みながら学習していくことと、それらを学んだ上で、すべての段階を自分の力でとらえて、考えを書く経験をくり返すことが大切です。

【小学校 算数A】

○…成果 ▼…課題

- 計算の意味と計算の仕方の理解、公倍数についての理解 (1)の(1)、(3)
- 四則計算の技能 (2)
- 正五角形の性質や立方体の展開図についての理解 (6)、(7)
- ▼平行四辺形と三角形の面積の関係についての理解 (5)
- ▼資料を二次元表へ分類整理すること (9)の(1)・(2)

※ (1)の(1)などは問題番号です

<解答結果から見られる学びのポイント>

— 算数A(9) 資料の分類整理の問題 —

9

家でイヌやネコを飼っているかどうかを、13人に聞いて、下のように記録しました。左の記録を下の表にまとめます。

飼っている動物調べ

出席番号	イヌ	ネコ
1	○	×
2	×	×
3	○	×
4	○	○
5	○	×
6	×	×
7	○	×
8	×	×
9	○	○
10	×	○
11	○	×
12	×	×
13	○	×

○…飼っている
×…飼っていない

飼っている動物調べ (人)

		ネコ		合計
		○	×	
イヌ	○	ア	イ	
	×	ウ	エ	
合計				オ

○…飼っている
×…飼っていない

(1) 左の出席番号1番の人は上の表の ア から エ までの中のどこに入りますか。1つ選んで、その記号を書きましょう。

正答 イ 【正答率 86.3%】

(2) 上の表の オ にあてはまる数を書きましょう。

正答 13 【正答率 61.1%】

Q (1) については、全国平均よりは若干低いものの、平成21年度調査の類似問題の正答率64%から大幅に伸びており、成果が見られます。一方、(2)については、正答率が61%に留まっており、全国平均に対しても若干低い正答率になっています。

? (2)の問題では、合計欄に「26」…12%、「11」…6%、「13・26・11以外」…15%という誤答がありました。

! この問題から、(1)の二次元表の見方は理解していても、(2)の二次元表の書き方やまとめ方が理解できていないことが分かります。(2)の問題を解く際には、資料を正しく分類整理する方法を理解していることとともに、正しく資料を分類整理することができたか判断する方法を理解することが大切です。

分類整理した数が正しいかどうか判断するための方法の一つが、「合計」の数に着目することです。資料の数は「13」なので、資料の数と二次元表の合計欄の数が同じか確認することで、求めた数が適切かどうか判断することができます。このように、導いた答えを別の角度から確認することは、他の問題でも大切な視点です。

- 示された条件をもとに適切な式を立てること (1)の(1))
- 示された考えの数を変えても同じ関係が成り立つことを図で表すこと (1)の(2))
- 平均を求めたり、仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数を規準とした場合の平均の求め方を、言葉や式を用いて記述したりすること (3)の(1))
- ▼身近なものに置き換えた割合の関係を解釈し、その理由を言葉や式をつかって記述すること (5)の(2))

※ (1)の(1)) などは問題番号です

<解答結果から見られる学びのポイント>

一 算数B 5 日常生活の事象の数学的な解釈と判断の根拠の説明の問題

(見かけの月の大きさ) 一

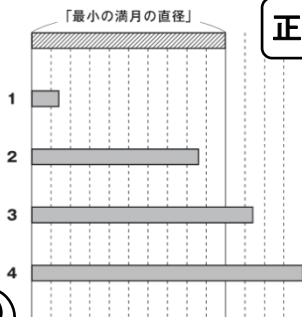
5

月は、地球のまわりを回りながら、地球に近づいたり、はなれたりしています。月の大きさは実際には変わりませんが、月が地球に最も近づいたときに、最も大きく見え、地球から最もはなれたときに、最も小さく見えます。地球から見える満月を円とみて、最も大きく見えるときの見かけの直径を「最大の満月の直径」、最も小さく見えるときの見かけの直径を「最小の満月の直径」ということにします。

「最大の満月の直径」と「最小の満月の直径」を比べたとき、「最小の満月の直径」をもとにすると、「最大の満月の直径」は約14%長いです。

(1) 「最小の満月の直径」を 、「最大の満月の直径」を  として、図に表します。

「最小の満月の直径」をもとにして「最大の満月の直径」が14%長いことを表しているものを、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



割合の関係を捉えることや、割合の関係について適切に判断して理由を記述することについては、依然として課題です。



(2) の問題では、番号「1」を選んだものの的確に理由が書けない誤答が27%見られるとともに、「1円玉をもとにして14%長くなっている」という関係を適切に式に表すことができずに、番号「2」を選んでいる誤答が40%見られました。



割合の関係を捉えるには、問題場面の中にある基準量を見付け、それを1と考え、比較量の大小を判断したり、比較量の大きさを見積もったりすることが必要です。そのために、例えばこの問題では「最小の満月の直径」と「最大の満月の直径」の関係を図に表すなど、ひとまず関係を別の形に整理し直し、基準量、比較量、割合がそれぞれ何に当たるかを的確に捉えた上で、考えていくことが大切です。

月の直径を、硬貨の直径に置きかえて考えます。
1円玉、100円玉、500円玉の直径は、それぞれ下のとおりです。

硬貨の種類とその直径

1円玉	100円玉	500円玉
		
20 mm	22.6 mm	26.5 mm

(2) 「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最小の満月の直径」をもとにして14%長くなっている「最大の満月の直径」は、100円玉と500円玉のどちらの直径に近いですか。

下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。

また、選んだ硬貨のほうが「最大の満月の直径」に近いと考えたわけを、言葉や式を使って書きましょう。

- 1 100円玉
- 2 500円玉

正答例 (2)

【番号】 1

【わけ】 (※別の解き方もあります)

最大の満月の直径は $20 \times 1.14 = 22.8$ で 22.8mm です。
100円玉の直径との差は $22.8 - 22.6 = 0.2$ で 0.2mm です。
500円玉の直径との差は $26.5 - 22.8 = 3.7$ で 3.7mm です。
100円玉の直径との差のほうが小さいので、100円玉のほうが近いです。 【正答率 11.6%】

- 目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめること (5)の二)
- 文脈に合わせて漢字を正しく書いたり読んだりすること及び、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと (9)の三)
- ▼相手に分かりやすいように語句を選択して話すこと (7)の一)
- ▼事象や行為などを表す多様な語句についての理解 (9)の五)

※ (5)の二) などは問題番号です

<解答結果から見られる学びのポイント>

— 国語A 7 学校図書館で先生に相談する問題 —

正答例

- ・(もう一冊は) 小説以外の本 (を) 取り上げたいと思っています。)
- ・(もう一冊は) 小説ではないもの (を) 取り上げたいと思っています。)

【正答率 59.4%】



全国平均は上回っているものの、40%の生徒が文中から適切な言葉を選択することができず、相手に分かりやすいように語句を選択して話すことについて課題が見られます。



この問題では、「十字以内」という条件に沿って書くことはできても、「サッカー以外の本」「それ以外の本」など、自分が聞きたい回答を得るためには不十分な言葉を選んで誤答が 35%見られました。



この問題では、まず、①で森さんが「サッカー以外の本を取り上げたい」とも受けとれる発言をしたために、先生の②の発言をすぐに引き出すことはできなかったという状況を捉えた上で、②の発言の前に「小説ではないものを取り上げたい」という内容を伝えていることに着目して考えることが必要です。

そのために、例えば、ある会話の場面について、その話し方で伝えたいことが正しく伝わっているか検討し、伝わっていない理由を考えたり、伝えたいことと付け加えの部分に注意しながら、「一つずつ詳しく話すか、まとめて話すか」「どの順序で話すか」「違う言い方ではどうか」などについて具体的に考えたりしていくことが大切です。

7

森さんは、国語の授業で本を紹介するために学校図書館で先生に相談しています。次は、森さんと先生との会話です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

森 国語の授業で、「青春」というテーマで本を紹介することになりました。自分でも探しているのですが、なかなかこれという本が見付かりません。何かよい本はありませんか。

先生 森さんは、どのような本を取り上げたいと思っているのですか。

森 私は、何かに打ち込みながら成長していく人が出てくる本を二冊紹介したいと考えています。一冊はサッカーに打ち込む中学生を主人公とした小説を選びました。もう一冊はそれ以外を取り上げたいと思っています。

先生 もう一冊の本もスポーツに関係する本にしますか。

森 スポーツの本でも、スポーツではない本でもよいと考えています。

先生 それならば、野球に打ち込む中学生を主人公とした小説がありますよ。

森 いえ、そうではないのです。一冊は小説を取り上げたので、もう一冊の本は違うものにしたいです。

先生 そうだったんですね。では、実際にあった出来事を書いた本はどうですか。

森 それは思い付きませんでした。具体的にはどのようなものがありますか。

先生 音楽に打ち込む人を取り上げた本や、演劇に打ち込む人を取り上げた本などがあります。音楽や演劇の棚を見てみるとよいですよ。

森 分かりました。最初に音楽の棚を見てみます。ありがとうございました。

— 森さんの①の発言のすぐあとに、先生から②の発言を引き出すためには、森さんは①の線部①でどのように発言するとよいですか。次の□に当てる言葉は十字以内で書きなさい。

もう一冊は

□

を取り上げたいと思っています。

- 登場人物の言動の意味を考えたり、場面の展開や登場人物の描写に注意して読んで、内容を理解すること (1の一、二)
- 目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと (2の一)
- 目的に応じて必要な情報を読み取ること (3の二)
- ▼表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと (1の三)

※ (1の一) などは問題番号です

<解答結果から見られる学びのポイント>

—国語B 1 文学的な文章を読む問題—


1

青山さんは、学校図書館で図書委員の生徒が作った「本の紹介カード」を見て、実際にこの本を読みました。次は、そのときに青山さんが見た「本の紹介カード」と、青山さんが読んだ「本の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【本の紹介カード】

自分らしさって何だろう……

古道具屋を営む家に生まれた仲のよい三姉妹。でも、麻子(私)は、自由奔放な妹の七葉との違いをいつも感じています。そのような中で少しずつ自分らしさを見付けていく麻子の成長の物語です。



スコレ No.4 宮下 奈都

比喩を用いた表現も素敵です!

(著作権の関係により、問題文は掲載しておりません。)

三 青山さんは、「本の紹介カード」にある「比喩を用いた表現」に着目して、「本の一部」を読み、感じたことや考えたことなどをあとの「読書の記録」に書いています。あなたなら「読書の記録」の「心に残った一文」と「感想」にどのようなことを書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「心に残った一文」は、「本の一部」から、比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと。

条件2 「感想」は、条件1で取り上げた表現について、「誰(何)の、どの(ような)様子なのかを明確にした上で、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

正答例

<心に残った一文>

中から、柳の葉の流れるような文様が息をのむほど美しい五寸皿が出てきた。

<感想>

「柳の葉の流れるような文様」という表現は、五寸皿の文様が柔らかな曲線で描かれていることを表している。柳の葉のしなやかさをイメージすることができる。【正答率 44.2%】



1一、二の正答率は86%を越えており、文学的文章についての内容理解は十分にできていますが、表現の特徴を捉えて自分の考えを書くことには課題があります。



この問題では、条件①の「心に残った一文」を抜き出すことはできるものの、条件②の「様子を明確にすること」「感じたことや考えたことを書くこと」が書けない解答が16%見られました。また、無回答が12%見られたことも課題です。



この問題では、比喩表現の技法とその技法が生み出す効果についての知識をもとにして、文章のどこからどのように感じたのか根拠を明確にして書くことが必要となります。

そのためには、日頃の学習や読書活動において、例えば「表現の工夫」を視点にして感想を書き、心に残った言葉について伝え合うなどして、多様な表現と、そこから生まれる様々な感じ方にふれることで、創造の世界を広げ、自ら文学的な文章を読み深めていくことができるようにすることが大切です。

- 実生活の場面で、ある数量が正の数と負の数で表されることへの理解 (1の(4))
- 平行移動した図形をかく技能 (4の(2))
- 与えられた比例の式について、 x の値に対する y の値をもとめる技能 (10の(1))
- ▼扇形の弧の長さを求める技能 (4の(3))
- ▼関数の意味の理解 (9)、範囲の意味の理解 (14の(1))

※ (1の(3)) などは問題番号です

<解答結果から見られる学びのポイント>

— 数学A 9 関数の意味の問題、数学A 14 範囲の意味・相対度数の求め方の問題 —

9 縦と横の長さの和が20 cmの長方形について、「縦の長さを決めると、それにもなって面積がただ1つ決まる」という関係があります。下線部を、次のように表すとき、①と②に当てはまる言葉を書きなさい。

①は②の関数である。

正 答

①面積、②縦の長さ

【正答率 20.1%】



10の(1)「 $y=4x$ について、 x の値が3のときの y の値を求める」は正答率が86%、11の(1)「 y は x の一次関数で、そのグラフの傾きは3、切片は2のとき、 y を x の式で表す」は正答率が78%であり、関数の計算の技能はおおむね身に付いていますが、関数の性質を言葉で表すことに課題があります。



9では、「①縦の長さ、②面積」という誤答が25%見られました。また、「縦の長さ」「面積」以外の言葉や数字を使っている誤答が17%、無回答が17%見られました。



この2つの問題からは、計算の技能とあわせて、数量の関係の意味を確実に理解する必要性が見られます。

そのために、例えば9では、身近な2つの数量の変化の様子を調べて「 $y=ax$ 」の式に表すとともに、「一方の値を決めるとそれに対応するもう一方の値がただ1つ決まる」という関係を見付けて「～は～の関数である」と言葉でまとめる活動、14では「範囲とは資料の最大値と最小値との差」という理解をもとに、データの散らばり具合から考えたことを文章で表す活動など、基礎的・基本的な知識をもとに、理解したことを言葉で書き表したり、言葉で表したことを数式に表したりしながら、意味の理解を深めていくことが大切です。

14 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 次の記録は、ある中学校の生徒7人が反復横とびを20秒間行ったときの結果を、回数の少ない方から順に並べたものです。

記録

40 46 47 48 53 53 56

(単位：回)

反復横とびの記録の範囲を求めなさい。

正 答

16【正答率 25.1%】



14の(2)「与えられた度数分布表についてある階級の相対度数を求めること」は正答率が57%で全国平均を約12ポイント上回っており、一定の成果が見られますが、範囲の意味の理解に課題があります。



この問題では、数学用語の「範囲」を日常生活の「範囲」と同じと捉えた「40から56」という誤答が36%見られました。また、同じ学習で学ぶ「中央値」と混同した「48」という誤答も見られました。

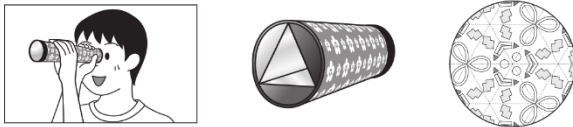
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えること (2)の(1))
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること (3)の(1))
- 資料から必要な情報を適切に読み取ること (5)の(1))
- ▼2つの図形の間を回転移動に着目して捉え、数学的な表現で説明すること (1)の(2))
- ▼事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明すること (2)の(3))

※ (2)の(1))などは問題番号です

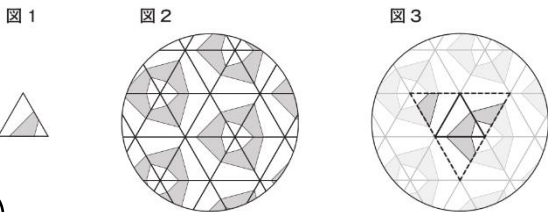
<解答結果から見られる学びのポイント>

－ 数学B 1 事象を図形的に解釈する問題（万華鏡）－

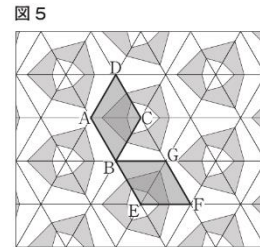
1 万華鏡は次のような筒状のおもちゃで、中に3枚の鏡を組み合わせた正三角柱が入っています。鏡が内側に向いているので、中をのぞくと、正三角柱の底面にある模様を周りの鏡に映って、美しい模様が見えます。



正三角柱の底面にある模様が図1である場合、図2のような模様が見えます。これは、隣り合う正三角形がすべて、共通する辺を軸に線対称になっているとみることができます。例えば、図3にある4枚の正三角形に着目すると、隣り合う正三角形は、共通する辺を軸に線対称になっていることがわかります。



(2) 前ページの図2の模様を図5のように広い範囲で考えます。図5の四角形ABCDの模様は、1回の回転移動で四角形GBEFの模様と重なります。四角形ABCDの模様は、どのような回転移動によって四角形GBEFの模様と重なるか書きなさい。



正答例

四角形ABCDを、点Bを回転の中心として時計回りに120°回転移動した図形は、四角形GBEFに重なる。【正答率12.5%】

(正答の条件)

四角形ABCDが四角形GBEFに重なる回転移動に着目し、次の(a)、(b)、(c)を記述しているもの

- (a) 「点Bを中心に」などの回転の中心の位置
- (b) 「時計回りに」などの回転の方向
- (c) 「120°」などの回転角の大きさ

この問題は全国平均も14%となっており、難易度が高い問題ですが、(2)の(3)などでも見られるように、事柄の特徴や成り立つ理由や問題解決の方法などを数学的な表現(言葉や式、図、表、グラフなど)を用いて説明することに課題があります。

この問題では、回転の中心は記述できても、回転の方向や角度についての記述が不十分な誤答が28%見られました。また、辺ABが辺EBに重なる「対称移動」と捉え違うなど、「移動」についての理解不足による誤答が23%見られました。

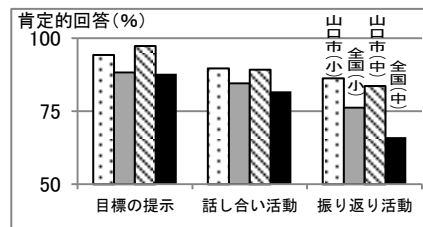
数学的な表現を用いて解答を記述する際には、問題文で求められていることに対して、前提(問いによっては仮定)と結論を明確にして考えていくことが必要です。この問題では、「四角形ABCDを回転移動させると四角形GBEFに重なる」という結論に何が前提として必要か考えていきます。その際、その考えを確かなものにするためには、移動についての基礎的・基本的な知識をもとに、『回転の中心』だけでなく、どれだけ回転させるか分からないから正しく移動できないなど、自分の考えで正しく結論にたどり着けるか客観的な視点で判断し、足りない情報を考えていけるようにすることが大切です。

3 生活習慣や学習環境等の結果

○…望ましい状況 ▼…課題の見られる状況

○授業における目標の提示、話し合い活動や振り返り活動の設定

学習において「目標（めあて・ねらい）が示されていた」「話し合う活動をよく行っていた」「振り返る活動をよく行っていた」と回答した児童生徒は、全国と比較して5～15%程度多く見られ、日々の授業が子ども主体となるように授業改善が進んでいることがわかります。



児童生徒にとって分かりやすい授業となり、着実に学力を身に付けることができるよう、授業改善が進んでいます。今後は、次期学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」に向けて、児童生徒が本気になるめあての設定や、話し合い活動の活性化など、学びの質の向上を図る取組をしていくことが大切です。

○話し合うときに、友達の話聞くこと

「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した児童生徒は約95%、「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えをもつことができている」と回答した児童生徒は約90%であり、聞くことの学習習慣が身に付いています。

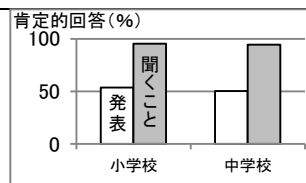
それぞれの項目で「できている」と答えた児童生徒と「できていない」と答えた児童生徒では、国語B、算数・数学B（主に活用に関する問題）において、正答率に18～27%の差があることから、聞くことが学力と深い関係があることがわかります。引き続き、すべての児童生徒が互いの考えを聞き合い、深め合うことができるような授業づくり・学級づくりを進めていくことが大切です。

「友達の考えを受け止めて、自分の考えをもつこと」
回答ごとの正答率(%)

	考えをもつこと	国語B	算数・数学B
小	できている	63.7	49.5
	できていない	45.5	31.8
中	できている	77.9	53.5
	できていない	50.6	27.0

▼自分の考えや意見を発表すること

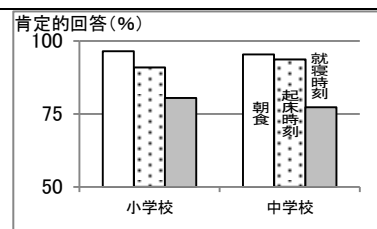
「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童生徒はおよそ50%となっており、聞くことの学習習慣が身に付いている反面、発表することには苦手意識をもっている児童生徒が見られます。



「発表すること」についても「聞くこと」と同様に、「得意である」と答えた児童生徒の方が「得意ではない」と答えた児童生徒に比べて正答率が高いという結果が表れており、自分の考えを他者に伝えることで、理解が深まることがわかります。今後も引き続き、発表意欲を喚起するような課題設定や授業形態の工夫、安心して発表できる学級づくりなどを進めることが大切です。

○▼規則正しい生活習慣

「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童生徒は93%を超えており、規則正しい生活習慣に関して、望ましい状況が引き続き見られます。しかし、就寝時刻が遅くなっていることや、依然として朝食の欠食児童生徒が見られることは課題です。



それぞれの項目で「食べて(起きて)いる」と答えた児童生徒と「食べて(起きて)いない」と答えた児童生徒では、正答率に10~20%の差があり、規則正しい生活習慣が学力に何らかの影響を及ぼしていることが伺えます。今後も、家庭と連携しながら、学力を支えるものとして規則正しい生活習慣を身に付け、日々の前向きな活動に導く取組を続けていくことが大切です。

○▼いじめを許さないという意識

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒は小学校で約98%、中学校で約94%となっており、人権意識の育成に一定の成果が見られます。しかし、依然として100%には至っていません。

小学校は平成30年度、中学校では平成31年度より教科化となる道徳の学習を中心に、すべての教育活動において、児童生徒が人とかかわりについて自分ごととして考え、「どんな場合でもいじめは絶対にいけない」という意識をすべての児童生徒に育むための取組が必要です。

○地域の行事への参加

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒は、小学校で約70%、中学校で約50%となっており、全国平均に比べて10%程度高くなっています。

地域ぐるみで子どもを育てるコミュニティ・スクールの取組が定着してきているといえます。ただ、平成28年度と比較すると若干低くなっているため、児童生徒の「地域参加」への意識を高める取組をさらに充実させ、地域とのつながりを実感させていくことが大切です。

▼読書習慣

平日において「読書をしている」と回答した児童生徒は小学校で80%、中学校で70%となっており、昨年度と比較して若干増加傾向にあります。しかし、読書時間については「10分未満」が15%程度見られることに課題があります。

学校図書館指導員の配置や読書ノート等の取組などによって改善は見られますが、さらに読書活動の質を高めることができるような取組が必要です。

4 課題解決に向けた各学校の取組事例

- A小学校では、課題解決のために「話す力・聞く力」を視点に研修を進めています。「お話タイム」では、話し方や聞き方、話し合いの進め方やなどの基礎となる技能を身につけるとともに、異学年でお話タイムをしたり、他のクラスのお話タイムを参観したりして、よいモデルを取り入れることができるように工夫し、話し合いのスキルを多くの児童が身に付け、授業に生かすことができています。
- B中学校では、新聞のコラムを書き写す活動を積み重ねることで、読み取りや文章表現の力とともに、活動に対する集中力を高めることにもつながっています。また、グループ学習の際にホワイトボードを活用し、仲間と考えを交流したり、整理や吟味をしたりするなど、生徒同士の対話を大切に学習にも日常的に取り組んでいます。
- C小学校では、算数の少人数担当教諭が、定期的に「算数だより」を発行して各家庭に配付しています。「算数だより」には、児童のよい学び方や考え方、各単元で児童がつまずきやすい内容が紹介されており、保護者と協力して家庭での学習を充実させるヒントにすることにつながっています。
- D中学校では、管理職も含めた全教員が各学級の道徳授業を持ち回りで行っていきます。複数の教員で授業内容を検討したり、授業を見合ったりすることで、授業の質が高まり、生徒の道徳性を養うことにつながっています。また、複数の目で生徒一人ひとりのよさや課題を見つめることも、課題の解決に役立っています。
- E小学校では、笑顔あふれる学校をめざし、児童の自己肯定感を高めることを目標に、フリートークや自分のよさを感じる自己評価アンケートに取り組んでいます。このような、児童一人ひとりの成長を見つめてく仕組みが、難しい問題にも最後まで取り組もうとする意欲につながり、学力の向上を支えています。
- F小学校では、本調査の誤答分析を教員全員で行い、児童が苦手としている部分や児童に必要な力などの重点項目を全員で共通理解し、それをもとに、1年生から系統性をもって授業づくりが進められるように取り組んでいます。また、管理職を中心に重点項目の授業の取組について定期的に確認し合うことで、重点事項の解決に向けた授業が着実に進めるようにしています。
- G小学校では、児童質問紙の結果を分析し、「自尊感情」や「規範意識」の向上には、総合的な学習の時間を中心とした地域連携が関係しているという仮説を立て、授業の検証や改善が行われています。その中で、意図的に地域の方々と深くふれ合う機会を設けることにより、言語活動が多くなり、コミュニケーション能力の育成にも結びついています。

山口市教育委員会は、今年度の成果と課題を踏まえ、日常的な学校訪問によって各学校の実態に応じたきめ細かな指導助言と支援を継続することで、児童・生徒の学力の向上と望ましい学習習慣の定着を図っていきます。